今月の範囲

第一部　基礎編
第二章　幸福をもたらす品性
四、人生の時期と品性の向上

モラロジー研究所の概論講座で使用される改訂『テキスト モラロジー概論』について、今月はエリクソンの発達課題に基づいて、いかに成人期以降に「品性向上」をめざすかについて図解します。

図解！モラロジー入門⑦

モラロジーを楽しく、平易に学びたい――。そんな要望にお応えして、この連載では改訂『テキスト モラロジー概論』の内容を図で解説します。ご自身の学習に、あるいは勉強会の資料としてご活用ください。

構成＝「れいろう」編集部

品性の向上をめざして

――エリクソンの発達課題理論から

柏生涯学習センター研修企画担当　望月文明（もちづきふみあき）

日本は社会的に高齢化が進む中で、成人期以降もさまざまな学習の機会が用意され、現代はまさに生涯学習の時代といえます。

モラロジー研究所でも品性の向上・完成をめざし、生涯学習を推進しています。では具体的に何を学んでいけばよいのでしょうか。今回は、改訂『テキスト モラロジー概論』が参考にしている精神分析家・エリクソンの理論から、「品性向上」について考えてみましょう。

エリクソンは、個人の誕生から死までのライフサイクルを、発達課題によって八つの段階に分けています。特に、成人期以降の発達課題を挙げると、次のようになります。

成人期前期（第六段階）

前段階の課題である自己の確立を遂げ、自信を得た人ほど、友情や競争、愛などの親密な対人関係を求め、特定の異性との間に真の意味で「親密な関係を築く」ことが新しい課題となります。中でも特筆すべきは夫婦の関係であり、この関係は単なる性的なものを超えた、相乗的に人間性を深めるものです。

図8　エリクソンの発達課題（第6～8段階）

エリクソンの発達課題によれば、成人期以降における「品性向上」には、年齢とともに3つのステップを踏むことが求められます

成人期後期（第七段階）

他者と親密な関係を築いた人の健康的な次なる発達課題は、「次世代を導いていくことへの関心」です。この場合の次世代は子孫に限られていませんが、子供がいれば、生後の愛着関係の形成も該当しますし、子孫に限らず他者を信頼できる感覚が持てる社会環境づくりも、重要な課題の一部です。

高齢期（第八段階）

人生の最後の発達課題は、自らの（みずか）「人生を振り返って統合する」ことです。エリクソンによれば、これまでの発達課題を達成した人は、最終的に自らの人生に責任を持つことができ、また、関わってきた人たちをかけがえのない存在として受容します。

これらの課題の達成は、決して容易ではないですが、単なる理想論でもありません。エリクソンのいう「人生の統合」は、モラロジーがめざす「品性の完成」と通じる部分があります。

各年代に応じた発達課題を一つずつクリアしていくことで、品性の向上をめざしていきたいものです。

参考　E.H.エリクソン『アイデンティティとライフサイクル』（西平直・中島由恵 訳、誠信書房）